

櫛田尚樹先生を偲ぶ

酷暑であった今年の夏もそろそろ終わりを迎えようかという2023年9月18日、室内環境学会九州支部委員を務めておられました櫛田尚樹先生がお亡くなりになりました。産業医科大学産業保健学部教授として、定年まであと1年半余という時でした。盛りを迎えた彼岸花の花言葉「悲しい思い出」を「やさしい思い出」に読み替えて、謹んで先生のご冥福をお祈りするとともに、室内環境学会へのご貢献と後進の方々への愛情深いご指導に心より感謝申し上げます。

櫛田先生は、産業医科大学医学部2回生として1985年にご卒業後、医学部放射線衛生学教室、衛生学教室、産業保健学部看護学科で、研究と学生教育に携わってこられました。2009年には国立保健医療科学院生活環境部長として赴任されましたが、2019年1月に産業医科大学産業保健学部にお戻りになられ、2020年4月から2023年3月まで産業保健学部長を務められました。戻られたのち学内でお目にかかったときには、変わらぬやさしいお顔と話し方に、少しほっとしたことを思い出します。

櫛田先生をご存知の多くの方は、名字の読み方に驚かれたのではないのでしょうか。「櫛（けやき）」の字を「くぬぎ」と読むお名前はとても印象に残っておりますが、ご出身の淡路島でも狭い地域に限られていると伺いました。「大地真央さんと同じ出身地よ」とおっしゃられていた先生の優しい口調は“国生みの地”と呼ばれる淡路島のものだと思いますが、荒い口調が特徴の北九州市に勉学のために来られた時には、さぞ驚かれたのではないかと思います。

室内環境学会では、国立保健医療科学院にご在籍の間も九州支部の委員を続けられ、委員会ではいつも貴重なご意見をいただき、また学会でお目にかかれば「元気？」と声をかけてくださいました。先生のお心の中には、いつも九州の地が根付いておられたのだと思います。

先生のご研究の主軸は、放射線衛生学と空気環境関連であったと思いますが、様々な分野に広範囲に興味を持たれ、また成果をあげておられました。長年喫煙の問題に取り組まれており、放射線衛生の分野とあわせて、ご指導を希望する大学院生が絶えませんでした。本学では多くの社会人大学院生を指導されましたが、お忙しい中でもきめ細やかなご指導をなさっておられました。

広範な分野での研究を続けておられた先生ですが、残念ながら私は、先生と研究をご一緒したことはありません。先生のきさくで分け隔てのないお人柄から、役割や立場が違ってフラットに人間関係を築かれていたことが印象的ですが、私はそこに入っていたと思います。ここ数年は、所属学部での仕事をご一緒することが多くなっていましたが、学部長としてのご意見も的確で、また多面的なご意見をとても心強く思い頼りにしておりました。

先生の優しい口調ながら的確で鋭いお言葉の数々には、研究を共にしてこられた皆さまもきっと心強く、また頼りに思っておられたことと思います。あのお声でお話していただくことはもうないのだと思うと、早すぎること逝去が残念でなりません。

櫛田先生、長い間どうもありがとうございました。どうぞ、心安らかに過ごしてください。

石松 維世